

山梨大学教育学部教員育成支援状況報告書

平成29年度版

平成30年5月

山梨大学教育学部附属教育実践総合センター

I 山梨大学教育学部の教員育成支援状況報告の概要

1 調査の目的

山梨大学教育学部教員による山梨県等の教員育成に関する支援実績を把握するため、アンケート調査を実施する。

2 調査対象者

山梨大学教育学部教員

3 調査方法

- ・山梨大学の「アンケートー教員育成支援状況報告システム」への入力による。(2017年10月31日にアナウンス)
- ・調査票は、1種類 <別添「アンケート・調査」参照>
- ・各教員が、2017年度の実績を入力

4 調査内容 <別添「アンケート・調査」参照>

教員支援を行った場所、種類、支援相手、内容、時期・期間

5. 回答数

対象者93名に対し、40名(43%)から回答を得た。

Ⅱ アンケート集計結果

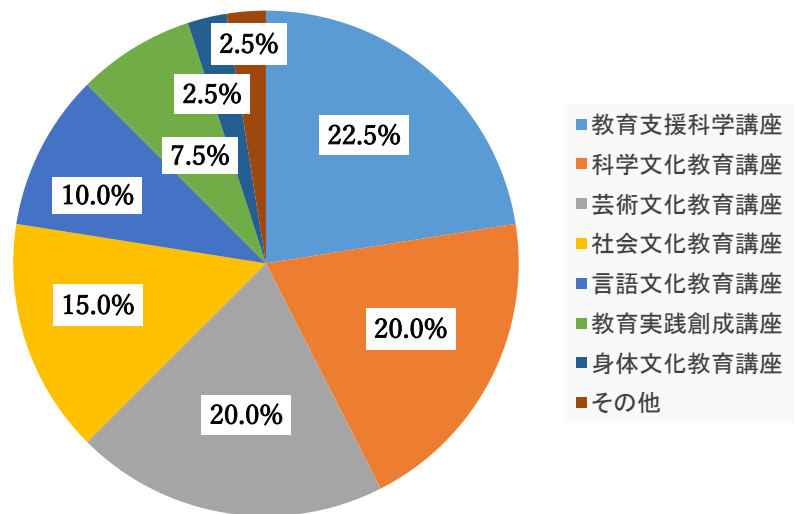
対象者数	93人	回答者数	40人	回答数	138
------	-----	------	-----	-----	-----

1. あなたのお名前を記入してください。

(省略)

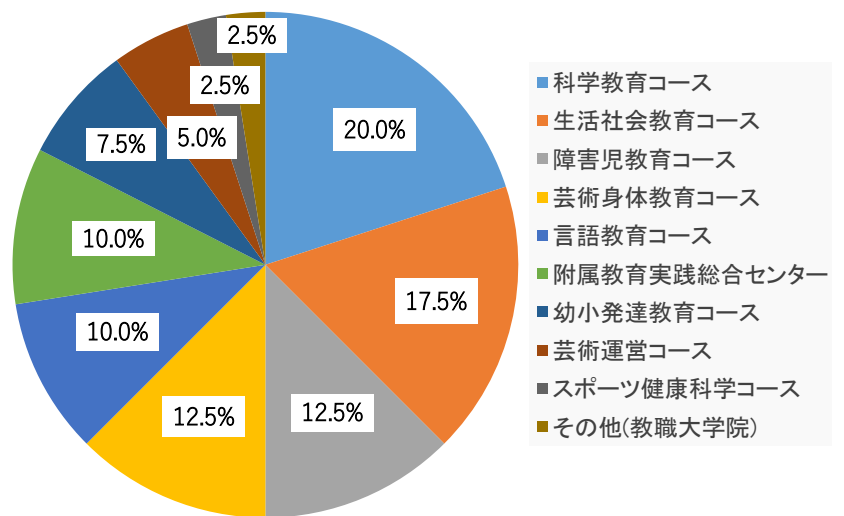
2. あなたの所属（講座）を選択してください。

講座名	人数	割合
教育支援科学講座	9	22.5%
科学文化教育講座	8	20.0%
芸術文化教育講座	8	20.0%
社会文化教育講座	6	15.0%
言語文化教育講座	4	10.0%
教育実践創成講座	3	7.5%
身体文化教育講座	1	2.5%
その他	1	2.5%
合計	40	100.0%



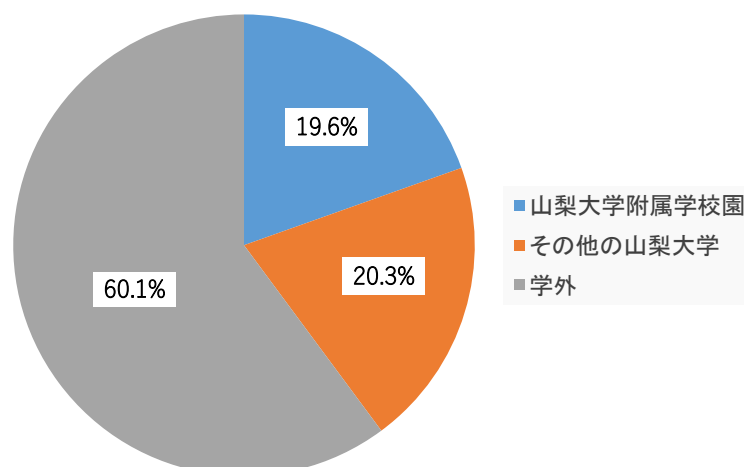
3. あなたの所属（コース等）を選択してください。

コース名	人数	割合
科学教育コース	8	20.0%
生活社会教育コース	7	17.5%
障害児教育コース	5	12.5%
芸術身体教育コース	5	12.5%
言語教育コース	4	10.0%
附属教育実践総合センター	4	10.0%
幼小発達教育コース	3	7.5%
芸術運営コース	2	5.0%
スポーツ健康科学コース	1	2.5%
その他(教職大学院)	1	2.5%
合計	40	100%



4. 教員育成支援を行った場所を、山梨大学附属学校園、その他の山梨大学、学外の中から選んでください。

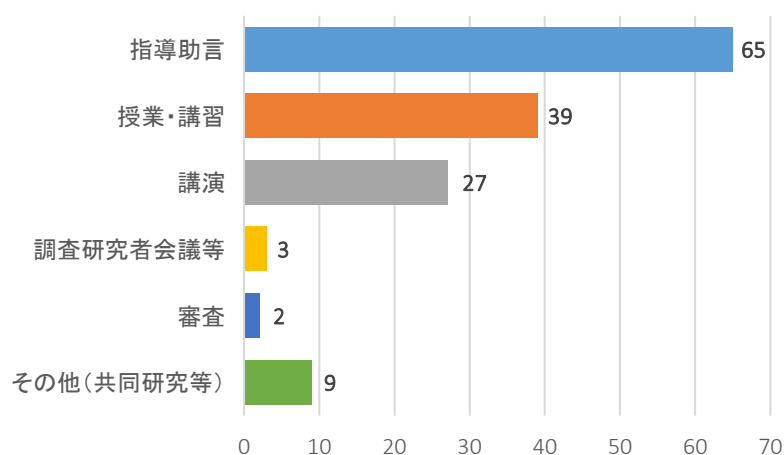
場所	回答数	割合
山梨大学附属学校園	27	19.6%
その他の山梨大学	28	20.3%
学外	83	60.1%
合計	138	100.0%



【考察】支援場所については、学外が60%を超えており、地域に出るの貢献という意味では一定の成果をあげていると考えられる。

5. 教員育成支援の種類を選択してください。判断に迷う場合は「その他」を選んでください。（複数回答可）

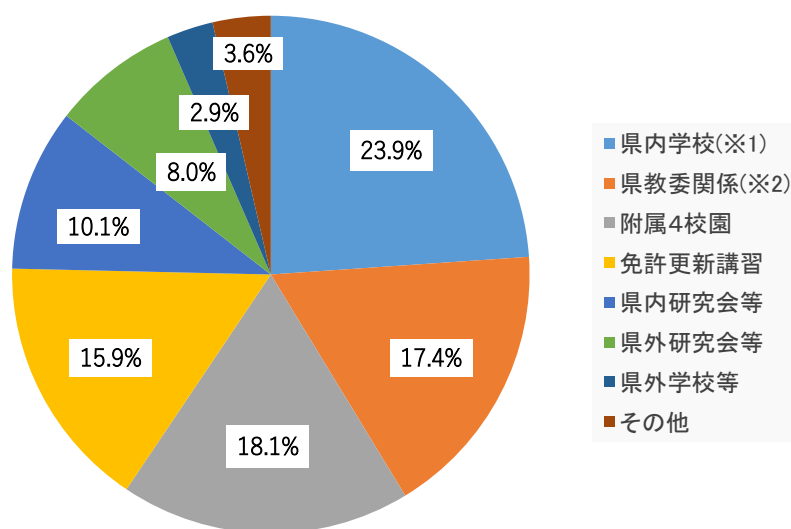
種類	回答数
指導助言	65
授業・講習	39
講演	27
調査研究者会議等	3
審査	2
その他（共同研究等）	9



【考察】支援の種類については、指導助言、授業・講習、講演が主たるものであり、全体の約9割を占めている。「指導助言」と、「授業・講習、講演」がほぼ同数であることから、学校現場においては、大学の教員のもっている知見とともに、自分たちの実践についての適切な指導助言やアドバイスを求めていることがわかる。

6. 支援相手の名前を記入してください。あなたが関わった、講習・公開授業・公開研究会等を主催する学校名や教育委員会名、財団法人、企業等、あるいは、教員としての力量形成が行われた教員の所属学校等を記入してください。山梨大学主催の講習、たとえば教員免許状更新講習の場合は、「教員免許状更新講習受講者（主に小学校教員 55 名）」などとしてください。

支援相手	回答数	割合	備考
県内学校(※1)	33	23.9%	(※1) 大明小・八田小・北新小・朝日小・甲運小・下山小・三珠中・北中・北東中・玉幡中・玉穂中・富士北陵高・巨摩高・日川高・甲府南高・甲府城西高・都留高・桃花台
県教委関係(※2)	24	17.4%	
附属4校園	25	18.1%	
免許更新講習	22	15.9%	
県内研究会等	14	10.1%	
県外研究会等	11	8.0%	
県外学校等	4	2.9%	
その他	5	3.6%	(※2) 県総合教育センター含む
合計	138	100.0%	



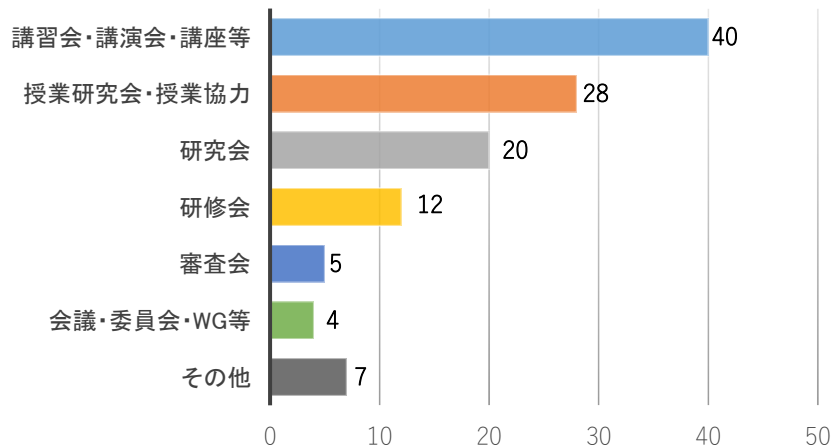
【考察】県内学校（小中高特）や県教委関係（教育センター含む）、県内研究会等、県内の学外への支援が約5割となっており、地域貢献という意味で概ねよい結果であると考えられる。なお、附属4校園や免許更新講習など学内に関わるものは約3割超、県外関係は約1割となっている。

7. 教員育成支援の内容（概要）を100字以内で記入してください。講習の場合などでは受講者の具体的な人数，場所等を含めてください。＜個別回答は、別紙参照＞

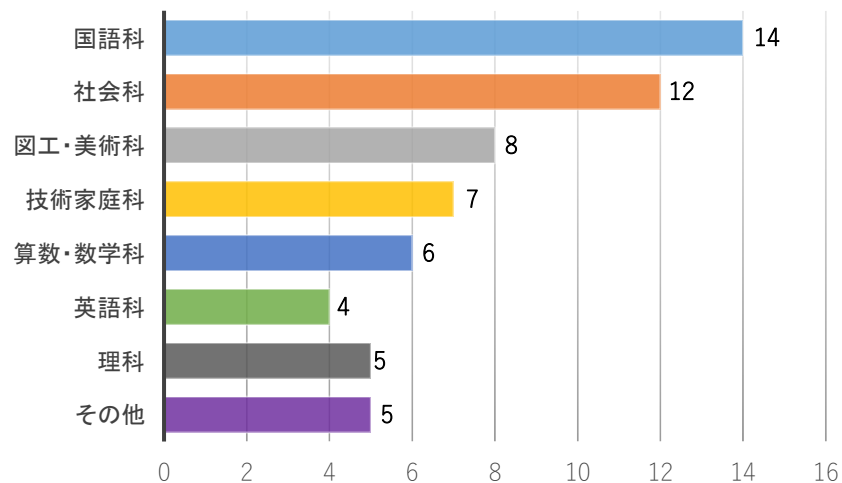
※自由記述の中から、支援に関わる次のキーワードを探し、傾向を分析した。

(1)形態 (2)教科等 (3)内容 (4)種類 (5)対象者 (6)対象人数

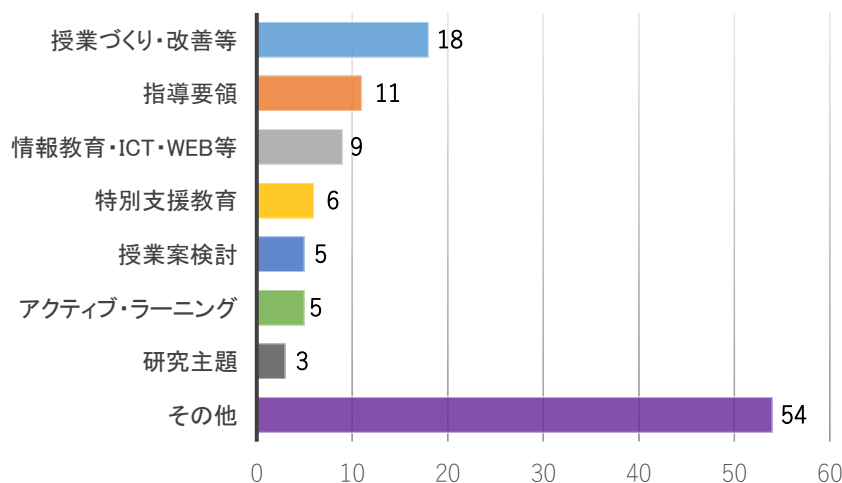
(1)形態	回答数
講習会・講演会・講座等	40
授業研究会・授業協力	28
研究会	20
研修会	12
その他	7
審査会	5
会議・委員会・WG等	4



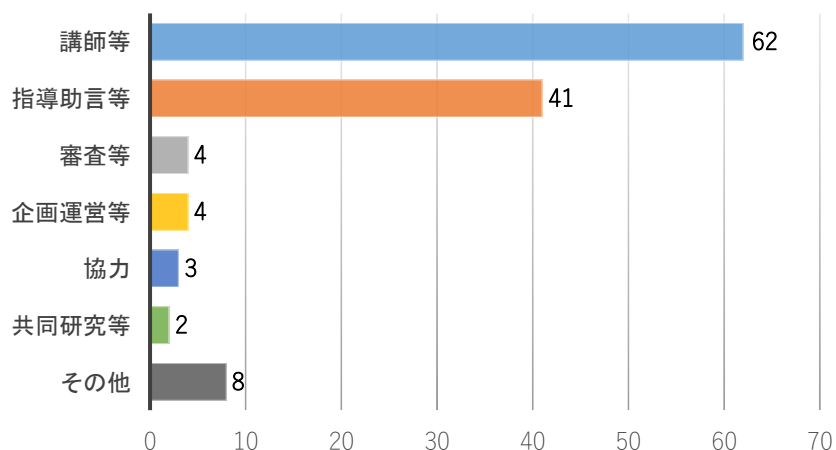
(2)教科等	回答数
国語科	14
社会科	12
図工・美術科	8
技術家庭科	7
算数・数学科	6
理科	5
英語科	4
その他	5



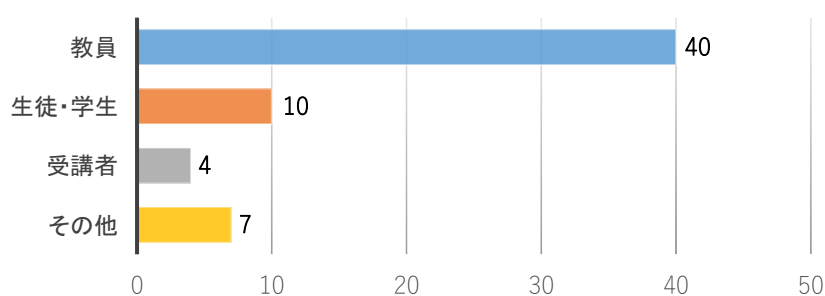
(3)内容	回答数
指導要領	11
授業づくり・改善等	18
情報教育・ICT・Web等	9
特別支援教育	6
アクティブ・ラーニング	5
授業案検討	5
研究主題	3
その他	54



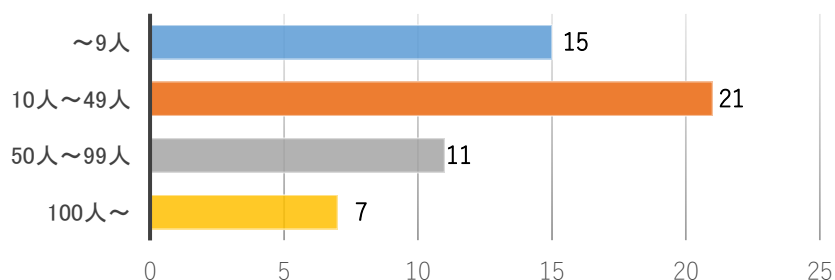
(4)種類	回答数
講師等	62
指導助言等	41
企画運営等	4
審査等	4
協力	3
共同研究等	2
その他	8



(5)対象者	回答数
教員	40
生徒・学生	10
受講者	4
その他	7



(6)対象人数	回答数
～9人	15
10人～49人	21
50人～99人	11
100人～	7

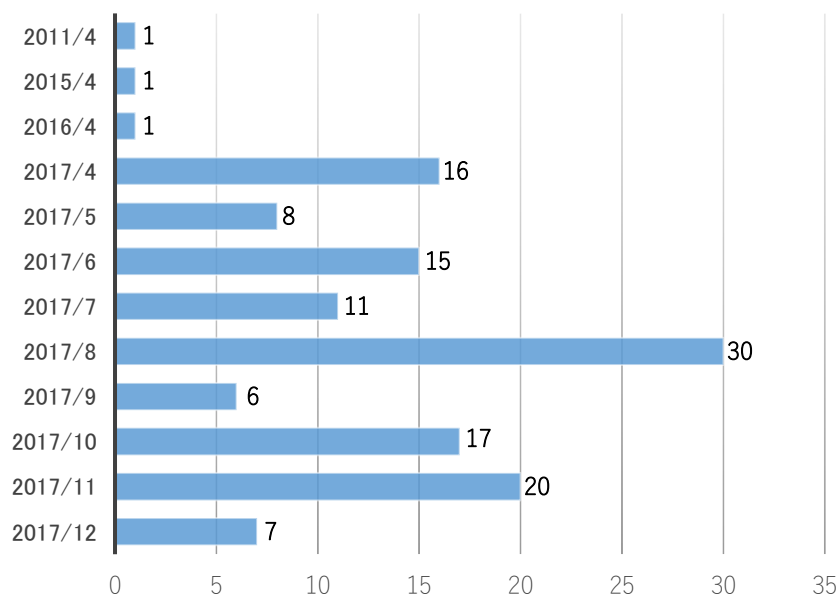


【考察】形態、教科、内容等の結果から、支援を多岐にわたり行っていることがわかる。また、種類については5の項と同様に講師や指導助言が非常に多くを占めているが、これは学校現場の要望に添ったものであると考えられる。対象者は教員以外に生徒や学生があるが、これは間接的に教員を支援することになっていると思われる。さらに、対象人数は50人未満を対象とした支援が多い。

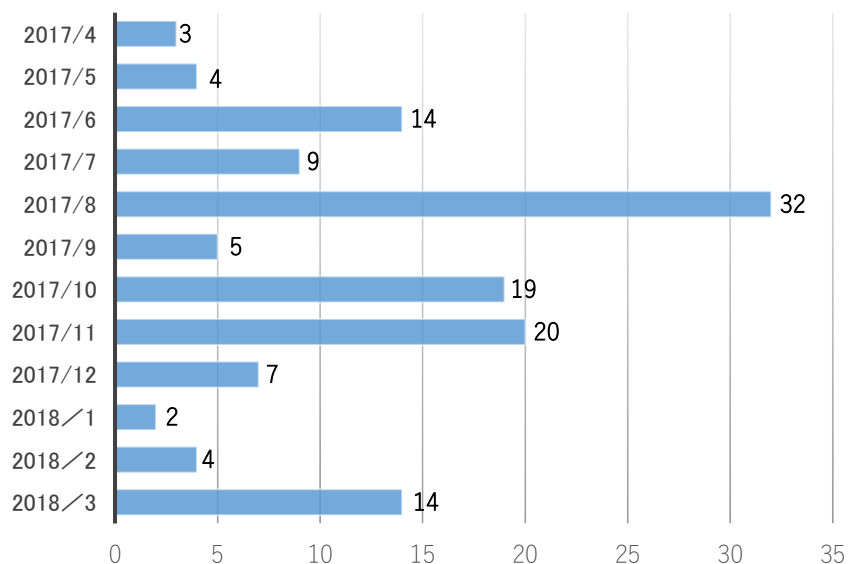
8. 教員育成支援の開始日をお答えください。支援が1日だけの場合は、次の、教育支援の終了日とともに、同じ日をお答えください。

9. 教員育成支援の終了日をお答えください。支援が1日間だけの場合は、前の質問項目の開始日と同じ日付をお答えください。現在も支援が継続している場合は、現在わかっている範囲で、支援終了予定日をお答えください。

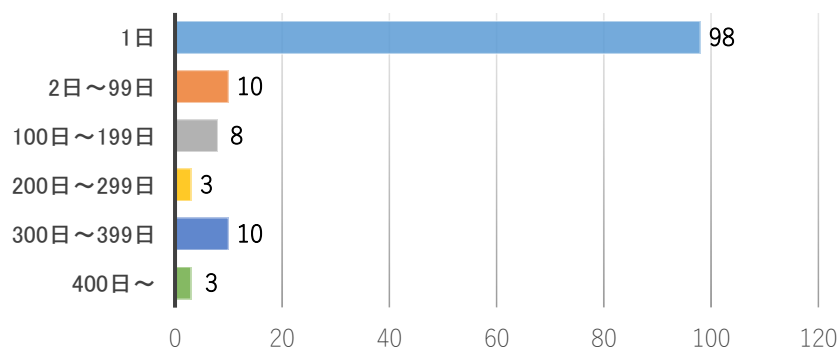
開始年月	回答数
2011/4	1
2015/4	1
2016/4	1
2017/4	16
2017/5	8
2017/6	15
2017/7	11
2017/8	30
2017/9	6
2017/10	17
2017/11	20
2017/12	7



終了年月	回答数
2017/4	3
2017/5	4
2017/6	14
2017/7	9
2017/8	32
2017/9	5
2017/10	19
2017/11	20
2017/12	7
2018/1	2
2018/2	4
2018/3	14



期間	回答数
1日	98
2日～99日	10
100日～199日	8
200日～299日	3
300日～399日	10
400日～	3



【考察】開始日は1学期から夏休み中が多く、終了日は夏休み中から11月頃が多い。また支援の期間は、1日が約75%で圧倒的に多い（400日以上があるのは、開始日を2017年度以前と記入した例が3件あるためと考えられる）。

7. 教員育成支援の内容（概要）を100字以内で記入してください。講習の場合などでは受講者の具体的な人数、場所等を含めてください。（個別回答）

- 山梨県高校生の基礎学力の定着に向けた学習改善のための調査研究事業検討会議の議長（高校生のための学びの基礎診断（仮称）の試行に関する検討）
- 山梨県教育委員会教員免許法認定講習（情報教育とICTの授業における活用）講師（受講者：12名）（場所・かいてらす）
- 校内研究会 テーマ：授業改善「主体的・対話的で深い学び」についての講演と演習 三珠中学校全教員
- パナソニック教育財団の専門委員として研究助成申請書の審査、助成金受給校の大阪府立枚方高等学校への訪問助言、及び成果報告会等における指導助言。
- 第20回中高生 Web 教材コンテスト最終審査員として、高等学校情報科、中学校技術家庭科、総合的な学習の時間、課外活動等における中学生、高校生の制作した Web サイトについて審査、指導助言を行った。
- やまなし ICT 利活用教育研究会代表幹事として、県内大学・中小高教員、ICT 関連企業等と連携し、情報教育、ICT 活用教育等の教育の情報化に資する研修会を企画・運営・実施した。
- 山梨県 青少年のインターネット利用環境整備連絡協議会会長として、学校関係機関、警察、PTA、携帯電話キャリア等と連携する連絡会議を主宰した。
- 部活動のあり方について
- 英語科の公開研究会の事前指導と本番に関する共同研究者。指導助言も行った。
- 中学校英語科の中核教員研修会での研修講師
- 英語科のリーディングに関する教員研修の講師
- 古今東西の様々な曲を題材に、音楽の成り立ちや様式などを確認しながら、作品の聴き方を考え、基本的な音楽理論を復習する。／受講人数：28名／場所：山梨大学
- 教育における山梨大学において教員免許更新講習として 50名の現職教員にむけて教育における身体論を中心に講義した。
- 中学校美術研修講座（中学校教員 80名）福岡アジア美術館：中学校美術科の教育課題や指導のあり方について
- 甲州市立神金小学校（小・中学校教員 10名）：新学習指導要領の解説と指導の工夫改善について
- 公開研究会の協力員として学習指導案の作成協力等（年度初めからの数回の打ち合わせと当日の助言）
- 中堅教諭等資質向上研修（1名）：中学校美術科の授業の工夫改善について
- 子小中合同研究会（主に小・中学校の教員約 50名）：授業実践に対する指導助言・新学習指導要領についての講習
- 学習指導案の検討など（年度初めから数回の打ち合わせと当日の助言）
- 静岡県立美術館（小・中学校の教員及び大学生約 40名）新学習指導要領について
- 親子保育参加の授業実践に関する指導助言及び保護者への講話
- 新潟ジュニア展の審査：小学生の絵の審査及び教員への絵の指導に関する助言
- 中堅教諭等資質向上研修（1名）：中学校美術科の授業の工夫改善について
- 図画工作科の授業の工夫改善について
- 山梨大学附属幼稚園の造形アドバイスの相談をうけ、学生と準備を進め、授業訪問し、大学の窯で焼成する予定です。会場は附属幼稚園のホール。当日の対象は教員・児童・保護者で合計約 60人程です。事前アドバイスは
- 山梨大学 N-12 教室で、社会科公民に必要な経済の知識を説明した。
- E-Learning を使った講習で、教員の仕事で必要なパソコン業務を説明した。
- 授業参観の後「子どもの心を育てるコミュニケーション」のテーマで講演、教員 15名、下山小体育館
- 中等教育研究会（技術）の公開授業の研究会における助言
- 教員免許状更新講習において、主に小学校教員 6名に対して「人が搭乗可能な出力 20W 以下の超小型電動車の製作法」を講義した。
- 第2回連携・教育研究会（情報分科会）として、公開授業（工業高校における初等プログラム制御教育ーレゴ・マインドストーム EV3 を活用した授業の在り方ー の検証授業 山梨県総合教育センター 中澤先生による授業
- 第2回連携・教育研究会（情報分科会）の一環として、公開授業（市川高等学校において指導助言。
- 小林先生の研究授業内で、西洋発声の見本として解説と歌唱を行い、併せて生徒指導を行った。
- 研究会の指導助言

- 教員免許状更新講習において言語力の育成に関する講義を行なった。対象者は山梨県内の教員 100 名、場所は山梨大学教育学部で実施した。
- 国語科の研究テーマ設定と公開授業の検討
- 国語科の研究テーマ設定と公開授業の検討
- 研究テーマに則した国語科の教科内容に関する講演と研究授業の学習指導案に対する助言
- 県教委主催・授業力養成講座・小学校国語科における研究授業に対する助言、及び、講座当日の授業を受けた講演。
- 近年の文章理解の心理学の研究成果を解説するとともに、読みの教育への応用可能性について示唆した。
- 近年求められている説明的な表現力を伸ばす授業のあり方について講演した。
- 新しい学習指導要領国語科のあり方について、説明・論説文の授業を例に講演した。
- 新しい学習指導要領が求める、主体的対話的で深い学びを成立させる授業について、国語科文学教材の授業を取り上げて講演した。
- 新しい学習指導要領が求める、主体的対話的で深い学びを成立させる授業のあり方について、いろいろな教科の基礎科学とのつながりを例に講演した。
- 今年度新しく特別支援学級や通級指導教室の担当教員、特別支援教育コーディネーターになった教員約 200 名を対象に山梨県総合教育センターにて「多様な障害の理解」について講義を行った。
- スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員
- 講習科目担当、Web 講習用教材の作成、提供
- 山梨学院大学において開催された山梨県私学教育研修会の数学部会において、高校数学科における統計内容の実質化についての講演を行った。また、参加各校からの教育現況報告に対して指導助言を行った。
- 山梨県総合教育センターで行われた高校中堅教員研修会において、高校数学科で近年重視されている統計教育の重要性について講演を行った。また、参加教員(計 6 名)の授業報告に関して討議・指導・助言を行った。
- 研究紀要の執筆(共著)
- 山梨大学甲府西キャンパスにおける教員免許状更新講習で小・中・高教員 40 名を対象に漢文教育史に関する講義を行った
- 6に記載の講習を山梨大学で行った。受講者は 60 人ぐらいだったと思う。
- 小林先生の研究授業のなかで「西洋発声」の例としてドイツ歌曲を歌唱し、解説した。
- 山梨県総合教育センター主催の中堅教諭等資質向上研修(山梨大学講座)において小・中・高校教員 23 名を対象に中国古典文学に関する講義を行った
- 中学英語2種免許認定講習ワーキング・グループのメンバーとして、昨年は2日にわたる講習を行い、今年度は内容・運営等に関わる作業を行った。来年はまた講習も行う予定。以下の詳細な日程は覚えていない
- 公開授業研究指導助言 毎年50名程度
- 教育実習研究授業における助言
- 主事研究における指導・助言
- 数学の授業研究に関する指導・助言
- 甲府市確かな学力推進委員会の座長として、北新小や甲府北中の指導案に作成から関わり、公開研究会に指導助言を行った。30人、40人
- 教育実習研究授業指導助言
- 教育実習研究授業指導助言
- 教員免許更新講習受講生@山梨大学
- 教員免許状更新講習の必修領域(「国の教育施策や世界の教育の動向」・「教員としての子ども」) 125名、M12教室
- 特別支援学校教諭免許取得希望の現職教員に対する「教育職員免許法単位認定講習」を毎年担当。担当領域は「知的障害児・肢体不自由児」の「教育課程と指導法」。受講者は例年 80 人前後。会場は山梨県内の特別支援学
- 民家ペーパークラフトを使ったリビングデザインの授業協力
- 民家ペーパークラフトを使ったリビングデザインの授業協力
- 民家ペーパークラフトを使ったリビングデザインの授業協力
- 出前講義(高大連携講座、ペーパークラフトで学ぶ地域の住まい)
- 小学校・中学校における社会科の地域素材学習内容について、古代の官道である東海道甲斐路(御坂路)が都留郡地域に及ぼした影響を題材に講義。受講者 5 名、会場は山梨大学 L 号館 L322 社会科卒論指導研究室。
- 「日本史学習会」研究助言者として、歴史学研究会編『日本史史料1 古代』(岩波書店刊)講読の講師を務める。

受講者 9 名、会場は L322 社会科卒論指導研究室。

- 「日本史学習会」研究助言者として、歴史学研究会編『日本史史料1 古代』(岩波書店刊)講読の講師を務める。受講者 7 名、会場は L322 社会科卒論指導研究室。
- 「日本史学習会」研究助言者として、歴史学研究会編『日本史史料1 古代』(岩波書店刊)講読の講師を務める。受講者 8 名、会場は山梨県立図書館。
- 「日本史学習会」研究助言者として、歴史学研究会編『日本史史料1 古代』(岩波書店刊)講読の講師を務める。受講者 9 名、会場は山梨県立図書館。
- 「日本史学習会」研究助言者として、歴史学研究会編『日本史史料1 古代』(岩波書店刊)講読の講師を務める。受講者 5 名、会場は L322 社会科卒論指導研究室。
- 「日本史学習会」研究助言者として、歴史学研究会編『日本史史料1 古代』(岩波書店刊)講読の講師を務める。受講者 6 名、会場は L322 社会科卒論指導研究室。
- 「日本史学習会」研究助言者として、歴史学研究会編『日本史史料1 古代』(岩波書店刊)講読の講師を務める。受講者 7 名、会場は山梨県立図書館。
- 教材として用いられる主題地図を簡単なアプリケーションで作成するソフトウェアの紹介と使用方法について
- 少人数学級のメリットを生かし、本人の努力だけを求めず、子どもたちの存在をつくる(須坂市 50 名)
- 子どもに「させる」学習から、子どもが「する」学習へと題し、子どもたちのストーリーを聴き、「障害」ではなく、「その子」「その人」とつきあうことを述べた。須坂市 38 名
- 幼・小・中・高を通して行われている特別支援教育の現状と課題を探り、あるべき方向性と教育や保育上の手立て、大人が持つべき視点を追求した。山梨県立図書館 170 名
- ヴィゴツキーの子ども観、発達観、あそび観、言語観を探り、特に保育場面で障害をどう考えるかを示した。山梨県立文学館 230 名
- 田村一二の「手をつなぐ子等」を解説し、戦前のいわばインクルーシヴ教育の在り方を示した。山梨市市役所 40 名
- 持ち寄られた事例発表を受け、具体的な支援、保護者へのかかわり、学級づくりの在り方について指導した。南部中学校 9 名
- 障害のある幼児、児童及び生徒の就学等に関する決定を行う市町村教育委員会等に対する指導及び助言。
- 学校運営に関する全般的助言。
- 教員採用検査に向けての小論文・集団討議・個人面接の概要説明と実践指導(主に小中学校希望者)
- 山梨県教育委員会指定学力向上アクティブ・ラーニング推進事業実践検証校 3 年算数研究授業と授業研究会指導助言 朝日小学校・所属教員 校外参加者 11 名
- 甲府市教育委員会指定「甲府の子どもの教育総合推進校」「甲府スタイル」の授業実践と学習習慣の形成「授業における見通しと振り返り」校内研修会 講義・協議 北中学校・所属教員
- 山梨県教育委員会指定学力向上アクティブ・ラーニング推進事業実践検証校 4 年算数研究授業と授業研究会指導助言 朝日小学校・所属教員 校外参加者 12 名
- 校内校外研究テーマ:「自ら学び続ける児童の育成」～本校における「自ら学び続ける児童像」の確立を目指して～講演「新学習指導要領で求められている授業の在り方」と協議 大明小学校・所属教員
- 公開研究会第 1 回事前研究会 全体会議講演「附属中学校に期待すること」(有識者会議の審議内容を踏まえて)講師 附属中学校・所属教員と研究協力員、大学教員、県教委義務教育課・総合教育センター指導主事
- 山梨県総合教育センターの主事研究の検証授業(南アルプス市立御勅使中学校)研究協力員による仮説検証授業と授業研究会指導助言・講評 参加者 11 名
- 山梨県教育委員会指定学力向上アクティブ・ラーニング推進事業実践検証校拡大校内研究会 2 年・5 年算数研究授業と授業研究会 2 年算数の指導助言担当 朝日小 所属教員・甲府市内の小中学校を中心とした参加者
- テーマ「古代から中世へ」～時代の転換の様子を捉え、次の時代への課題意識を持つ授業～ 題材「平安時代の後半は「古代」なのか?」1 年歴史的分野の研究授業・授業研究会 笛吹市立浅川中学校約 40 名
- 「甲府の教育総合推進校」としての 2 年間の研究の発表(公開授業・授業研究会)全体会での指導講評 北中学校 甲府市内小中学校教員を中心とした参加者(約 60 名)
- 5 年「暮らしを支える情報-情報を伝える人々」提案授業・授業研究会 児童が主体的に取り組む授業を創造するための授業改善、小中連携等について研究協議 附属小学校(約 20 名)
- 山梨県総合教育センターの主事研究の検証授業(北杜市立長坂中学校)研究協力員による仮説検証授業と授業研究会指導助言 参加者 10 名
- 提案授業(1 年国語「きてしらせよう ともだちにきいてみよう」)参観、授業研究会(対話によるリフレクション→グループ協議→全体会)授業改善・校内研究会の持ち方の改善に取り組む 全体会での指導講評

- 平成 29 年度中等教育研究会, 事前研究会, 等において, 研究主題及び授業案について, 指導・助言をおこなった。
- 平成 29 年度中等教育研究会, 事前研究会, 及びメール等において, 研究主題及び授業案について, 指導・助言をおこなった。
- 平成 29 年度初等教育公開研究会, 事前研究会, 及びメール等において, 研究主題及び授業案について, 指導・助言をおこなった。
- 山梨大学 N-11 教室にて, 42 名の教員を対象に希少生物の保護と環境保全について講義を行った。
- 新学習指導要領についての講演、中学校美術科教師 50 人程度
- 新学習指導要領についての後援と授業についての指導助言、東山梨地区の小・中学校の教員約 10 名
- 公開研究会に関わる研究協力者(開始日は不明、数か月前から)
- 附属中学校の生徒及び保護者を対象とした若桐講座の企画・運営(参加者は延べ約 500 名)
- 山梨大学において、図画工作科の学習改善についての講習を行った。
- 杉並区の幼・小・中学校の教員約 50 名、研究授業の指導助言と図工・美術教育に関する講演を行った。
- 公開研究会の研究協力者、附属の教員と半年ほど前から数回打ち合わせ等を行った。
- 新しい学習指導要領についての後援と授業への指導助言、静岡県内の小・中学校教員約 30 名
- 附属幼稚園の先生方と共同で授業を企画(アドバイス)した。
- 新潟ジュニア展(児童画展)の審査を行い、約 1500 点の絵画を審査した。
- 中堅教諭等資質向上研修、受講者は 1 名
- 中堅教諭等資質向上研修、受講者は 1 名
- 学習指導要領の改訂作業(高校芸術(工芸)及び専門科目の美術)
- 鶴田心主事の研究の指導助言
- スーパーサイエンスハイスクール(SSH)事業の運営にかかわる指導・助言
- スーパーサイエンスハイスクール(SSH)事業の運営にかかわる指導・助言
- 初等教育公開研究会に向けた理科部の研究総論・授業内容に関する共同研究
- 中等教育公開研究会に向けた理科部の研究総論・授業内容に関する共同研究
- 選択必修領域の学習指導要領改訂の動向について講習を実施した
- 選択領域「理科指導のあり方」の講習を実施した
- 小・中堅理科研修会(3944)として 6 名の小学校の先生方に「理科の授業づくり」「概念地図法」「電気分野の実験」に関する研修を実施した。
- 教員免許状更新講習「服飾の原点となる技術」(30 名、山梨大学)本講習では、服飾の原点となる技術「撚り」を取り上げ、羊毛繊維から糸をつくる体験を交えながら衣生活との関連を考える。
- 高校家庭科授業力向上研修会Ⅱ スラッシュキルトのブックカバーの製作と被服製作指導について
- 出前講義 静岡県星陵高等学校 高校生 2 クラス 80 名 「江戸時代の着物のデザイン」小袖の模様を中心に学びながら、日本の衣生活文化の特徴について考える。
- 金融広報中央委員会(事務局:日本銀行)が主催する「先生のための金融教育セミナー」の中学校分科会の進行・コメントを行った。中学校教員 30 名程度 日本教育会館
- 静岡県平成 29 年教員向け消費者教育講座「実践!すぐに活用できる消費者教育指導のポイント」 静岡県教育会館 参加 20 名
- 家庭科授業研究会「夏の研修会」(かながわ労働プラザ)「金融教育の視点から考える家庭科における消費者教育の授業デザイン」講義と演習 中学校教員約 20 名
- 「消費者教育の内容と指導」
- 小・中学校生徒指導主事研修会において、「心理学から見た生徒指導」という題目で講演を行った。
- 新入園児審査会において、親子の遊びの観察および助言を行った。
- 特別な支援の必要な幼児の観察を行い、教育的支援について助言を行った。
- 発達障害児の理解と支援に関する講義を、主に小中高特別支援学校教員 100 名に対して実施した。
- 「話し合いの授業づくり」についての講習及びグループワークを行った
- 中学校 3 年国語科提案授業「高瀬舟」についての指導助言を行った。
- 小学校 3 年国語科提案授業「すがたをかえる大豆」についての指導助言を行った。



アンケート・調査

教員育成支援状況報告システム

(平成 29 年度) このページは、山梨大学教育学部教員による、山梨県等の教員育成に関する支援実績を報告していただくものです。

- お手元の端末、ブラウザの環境によっては正常に表示・入力されない可能性があります。そのような場合は、別の端末をお使いください。
- 2017 年 (平成 29 年) 4 月 1 日以降の実績を入力してください。
- 2 件以上の支援を続けて入力する場合、「アンケート名」に「済」がチェックされていますが、そのまま続けて入力してください。
- 報告された内容は、随時、附属教育実践総合センターで集約、分析したうえで、山梨大学教育学部の教員育成の実績として、文部科学省等への報告、予算要求の際の資料等として活用させていただきます。この調査の性格上、入力いただいた支援相手等の具体的な名前をはじめ、支援内容等の具体的な内容が公開されることがあることを、あらかじめご了承ください。また、支援相手等に係る個人情報記入しないようご注意ください。
- システム全般についてのお問い合わせは、附属教育実践総合センター (メール: jissen@ml.yamanashi.ac.jp, 電話: 8325) までお願いします。

アスタリスク (*) 付の項目は入力必須項目です。

*1. あなたのお名前を記入してください。

*2. あなたの所属 (講座) を選択してください。

教育支援科学講座
 言語文化教育講座
 社会文化教育講座
 科学文化教育講座
 芸術文化教育講座
 身体文化教育講座
 教育実践創生講座
 その他

*3. あなたの所属 (コース等) を選択してください。

幼小発達教育コース
 障害児教育コース
 言語教育コース
 生活社会教育コース

科学教育コース 芸術身体教育コース スポーツ健康科学コース 芸術運営コース
 附属教育実践総合センター その他

*4. 教員支援を行った場所を、山梨大学附属学校園、その他の山梨大学、学外の中から選んでください。

山梨大学附属学校園 その他の山梨大学 学外

*5. 教員育成支援の種類を選択してください。判断に迷う場合は「その他」を選んでください。(10つまで選択可)

授業・講習 講演 指導助言 審査 研修会企画 調査研究者会議等 その他

*6. 支援相手の名前を記入してください。あなたが関わった、講習・公開授業・公開研究会等を主催する学校名や教育委員会名、財団法人、企業等、あるいは、教員としての力量形成が行われた教員の所属学校等を記入してください。山梨大学主催の講習、たとえば教員免許状更新講習の場合は、「教員免許状更新講習受講者（主に小学校教員 55 名）」などとしてください。

*7. 教員育成支援の内容（概要）を 100 字以内で記入してください。講習の場合などでは受講者の具体的な人数、場所等を含めてください。

*8. 教員支援の開始日をお答えください。支援が 1 日だけの場合は、次の、教育支援の終了日とともに、同じ日をお答えください。

(e.g. 2018/5/7)

*9. 教員支援の終了日をお答えください。支援が 1 日間だけの場合は、前の質問項目の開始日と同じ日付をお答えください。現在も支援が継続している場合は、現在わかっている範囲で、支援終了予定日をお答えください。

(e.g. 2018/5/7)

送信